

本音の コラム



みやこ
宮子 あずさ

四月から中学生の女子を対象に定期接種となった子宮頸がん予防ワクチン。その副作用が今、問題になっている。二〇〇九年十二月の販売開始から今年三月末までに重症例の報告は百六件。そのうち六十七件が接種と因果関係があるという。

私はこのワクチンについて相談されたら、無理に接種する必要はないと答えている。なぜなら、ワクチンの持続性は不確定。ウイルス感染以外の子宮頸がんも三割を占めている。

むしろ怖いのは、予防接種をしたからと言って、検診を受けない人が増えることだ。二十歳以上なら隔年で無料検診が

子宮頸がんワクチン

受けられる。この受診率は米国八割に対して、日本は二割。先進国で最低という状況なのだ。

もちろん、受けたくない気持ちは私もわかる。しかし、進行がゆっくりの子宮頸がんは、検診で見つけられれば、手術だけで完治が可能。これはやはり、受けないのはもったいないと思う。予防接種より、圧倒的に検診を重視してほしい。

このように、私は子宮頸がん予防ワクチンに対して消極的だが、これは、ウイルスの性質にもよっている。感染経路は性行為のみで、爆発的流行はあり得ないからだ。

インフルエンザや風疹など、伝播しやすいウイルスの予防接種には、防疫という社会的な意義がある。このことも、併せて知っておきたい。

(看護師)